

異常気象分析検討会の開催について

～ 2009年7月の不順な天候をもたらした要因の分析 ～

標記検討会を下記のとおり開催しますのでお知らせします。この会合では、2009年7月の不順な天候をもたらした循環場を対象に、その要因について分析・検討を行います。

記

1. 日 時：平成21年8月3日（月）16時～17時
2. 場 所
 - ・インターネットを利用したWEB会議
 - ・会長と事務局は気象庁から参加し、他の委員はそれぞれの勤務地から参加
3. 議 事
 - ① 2009年7月の不順な天候をもたらした要因の分析
「東海以西のかなり遅い梅雨明け」や「平成21年7月中国・九州北部豪雨」、
「北日本の顕著な多雨と日照不足」といった2009年7月の不順な天候をもたらした大規模な大気の流れを解析し、その要因についての分析・検討を行います。
 - ② 今後の天候の見通し
4. 出席者：異常気象分析検討会委員。別紙に委員の一覧を掲載。
5. その他
 - ・検討会は非公開（ただし、頭撮りは可）。
 - ・検討会終了後、記者会見を予定。また、議事概要を気象庁ホームページで公開予定。

【本件に関する問い合わせ先】

気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課
03-3212-8341（内線3158）

異常気象分析検討会委員

- | | | |
|---|-------------------|---------------------|
| | やまざきこうじ
山崎孝治 | 北海道大学大学院地球環境科学研究院教授 |
| | いわさきとしき
岩崎俊樹 | 東北大学大学院理学研究科教授 |
| ◎ | きもとまさひで
木本昌秀 | 東京大学気候システム研究センター教授 |
| ○ | なかむら ひさし
中村 尚 | 東京大学大学院理学系研究科准教授 |
| | ますもとゆきお
升本順夫 | 東京大学大学院理学系研究科准教授 |
| | やすなりてつぞう
安成哲三 | 名古屋大学地球水循環研究センター教授 |
| | むこうがわ ひとし
向川 均 | 京都大学防災研究所教授 |
| | ひろおかとしひこ
廣岡俊彦 | 九州大学大学院理学研究院教授 |
| | お せ ともあき
尾瀬智昭 | 気象研究所気候研究部第二研究室長 |
| | ふじべふみあき
藤部文昭 | 気象研究所予報研究部第三研究室長 |

(◎ : 会長、○ : 会長代理)

(参考) 2009年7月の各地域の天候の状況 (注)7/29までの速報値で、7月の確定値ではありません。

表 地域平均平年差・比と階級

地域	細分	気温平年差	降水量平年比	日照時間平年比
		℃(階級)	% (階級)	% (階級)
北日本	全域	-0.4(低い)	223(1位多)	67(2位少)
	日本海側	-0.7(低い)	229(2位多)	53(1位少)
	太平洋側	-0.1(平年並)	218(1位多)	79(少ない)
東日本	全域	+0.4(平年並)	110(多い)	60(かなり少ない)
	日本海側	-0.1(平年並)	158(多い)	50(2位少)
	太平洋側	+0.5(平年並)	97(平年並)	63(かなり少ない)
西日本	全域	+0.0(平年並)	132(多い)	58(3位少)
	日本海側	+0.0(平年並)	154(多い)	50(1位少)
	太平洋側	+0.0(平年並)	115(多い)	65(3位少)
沖・奄	全域	+0.4(高い)	61(少ない)	98(平年並)

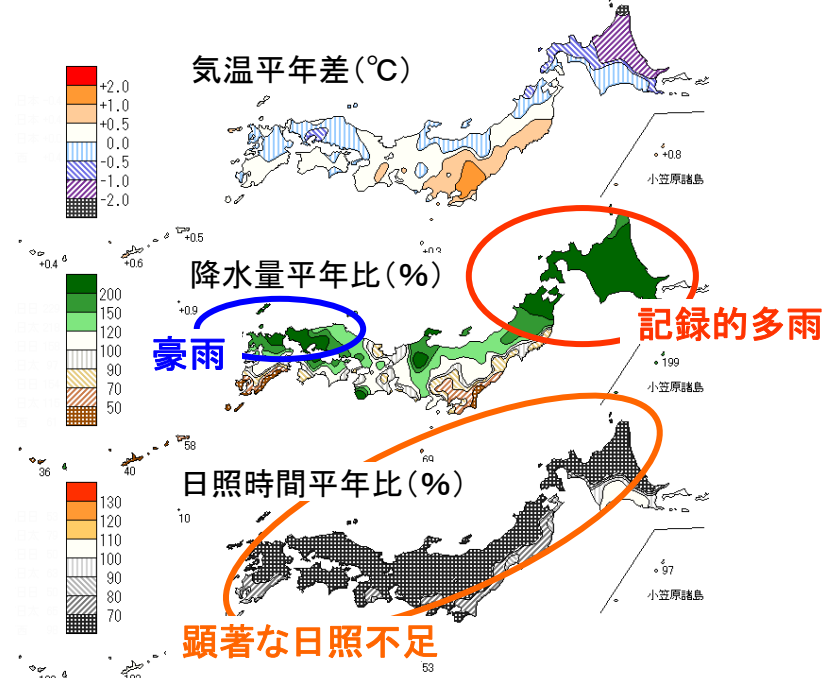


図1 気温・降水量・日照時間の分布

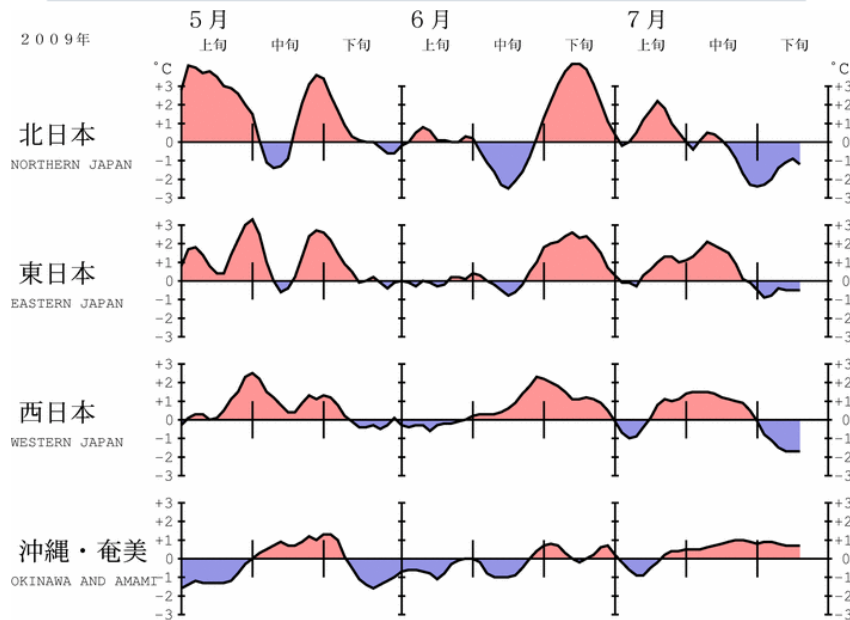


図2 地域平均気温平年差の経過

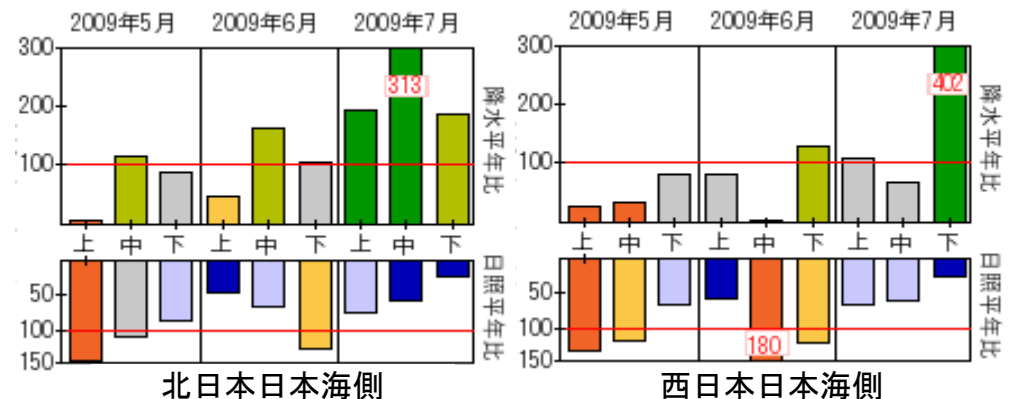


図3 旬間降水量・日照時間
平年比の経過

図の上側が降水量 (平年比:単位%)
図の下側が日照時間 (平年比:単位%)

